

未収金目標及び具体取組内容調査書

所属	生野区	担当	企画総務課	債権整理番号(3ケタ)	生野001	債権区分	非強制徴収公債権(非強公)	債権名	過年度給与戻入金
----	-----	----	-------	-------------	-------	------	---------------	-----	----------

1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況 … いずれかの記号を入力 ※修正目標 … 当年度当初に、前年度末の未収金残高の結果を踏まえて、当初目標を修正したものの

(例) 令和4年度修正目標=令和4年度当初に、令和3年度末の未収金残高の結果を踏まえて、令和4年度当初目標を修正したものの

過年度	-	現年度	-	合計(過年度+現年度)	-
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標達成、「B」… 取組みを予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず、目標も未達、「-」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定

2. 未収金の推移(実績及び目標) … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数 ※当初目標 … 前年度中に設定する当年度の目標

(単位:千円)

	過年度分									現年度分							合計		
	前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
	ア =前年度ケ	イ =ア-ウ (▲=増加を表す)	ウ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =エ÷ウ	ク =カ÷ア	ケ =ウ-(エ+オ)	ウ'	エ'	オ'	カ' =エ'+オ'	キ' =エ'÷ウ'	ク' =カ'÷ウ'	ケ' =ウ'-(エ'+オ')	キ'' =(エ+エ') ÷(ウ+ウ')	ク'' =(カ+カ') ÷(ア+ウ')	ケ'' =ケ+ケ'
A 令2実績		0				0	-	-	0				0	-	-	0	-	-	0
B 令3実績	0	0				0	-	-	0				0	-	-	0	-	-	0
C 令4修正目標	0	0				0	-	-	0				0	-	-	0	-	-	0
D 令4実績	0	0	0	0	0	0	-	-	0	108	0	0	0	0.0%	0.0%	108	0.0%	0.0%	108
E 令5当初目標	0	▲108	108	108		0	100.0%	-	0	0	0	0	0	-	-	0	100.0%	-	0
F 令5修正目標	108	108				108	-	100.0%	0				0	-	-	0	-	100.0%	0
G 令6当初目標	0	0				0	-	-	0				0	-	-	0	-	-	0

3. 令和4年度決算見込における未収金実績の状況(区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数) … 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

(残高の単位:千円)

分類	回収債権									整理債権							合計		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	
過年度	未収債権の件数									0								0	0
過年度	未収金残高									0								0	0
現年度	未収債権の件数		1							1								0	1
現年度	未収金残高		108							108								0	108

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】
 ① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例: 毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。
 それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なっている場合、3の表は、相続された債権額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ※ 未収債権の進捗状況 … ① → ② → ③ ⇒ 回収債権: (④ → ⑤) 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権: (⑩ 又は ⑪ 又は ⑫ → ⑬) → ⑭) 又は ⑮ → ⑯

令和4年度
決算見込に
おける
債務者数
1
人

令和4年度決算見込における
未収債権の件数(過年度+現年度)
1
令和4年度決算見込における
未収金残高(過年度+現年度)
= 上記2のD(令4実績)のケ
108

4. 令和4年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容	-	-
取組実績	-	令和5年1月に当区職員の扶養手当の認定誤りが発覚したため、総務局管理課から職員本人へ経過等を説明のうえ、過年度給与戻入について調整を行った。その結果、過年度給与戻入額が高額になるため、令和4年度末と令和5年度末に分割して納付する事で職員本人から了承を得た。
課題		-
改善策		-

5. 令和5年度の取組内容 … 「1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況」及び「4. 令和4年度取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

	過年度	現年度
取組内容	令和5年5月上旬に当区担当者と職員本人が面談を行い、残りの過年度給与戻入分について、令和6年3月末に一括戻入することを再度確認した。	